

なな

4月号
vol. 182

ナイスの
ホームページが
新しくなりました



特集

Jobなな

ジョブ
なり

第2回 木で作るしごと

「西成のまち」
プランコート屋上より撮影



ジョブなりの仕事

「これが私の仕事也」。
17,000以上もある日本の仕事のなかから、西成で働く人々の仕事の流儀を学んでみよう。誇りを持って仕事をするってどんなだろう？ そんな仕事を学べる時間はけっこう少ないのかも。

第2回 木で作るしごと

木の香りや手触りは人の体に癒しをもたらす効果があるとされている。木は昔から住居や家具など様々な物に利用され、私たちの生活に無くてはならないものである。当然ながら、木が自ら形を変えて成長し、家具になってくれる訳では

ない。木と職人の技術が融合し、はじめて家具としての形を成す。

今回は、手作りの木材家具等を生み出す職人、西成区北開にある「真田陳列製作所」の代表・真田頼男さん取材した。真田さんはこの道60年以上の大ベテラン。現在81歳だが、とてもお元気で煙草がよく似合っている。優しい雰囲気です。「チョコレート食べるか？ 煙草吸うんやったら吸いや。」などと気遣ったくれた。

修行のころ

真田さんは中学卒業後すぐに近所の方の誘いで、結納などに使われる桐箱や鳥の餌箱などを製造する会社へ就職。

といっても、食事付きで給料3000円。丁稚奉公と変わらない。当時の大卒初任給8700円程度と比べると、経済的にはかなり厳しかった現実がわかる。

「どつかれてはっかりやっただ」。丁稚奉公時代の苦労話を聞くと、第一声がそれだった。この仕事には欠かせない工具「カンナ」は、使い込むうちに裏刃の少ない部分を叩き出す「裏出し」という作業が必要になる。金槌で叩くのだが、慣れていないと刀金の部分が割れてしまい、よく殴られたそうだ。真田さん曰く、カンナの裏出しがしっかりできていないかどうかで、職人の腕の良し悪しができるのだ。基礎的なことが宝されるのだろうか。

1年半ほどその職場で働き、他の仕事に就いたりもしたそうだが、23歳のときにこの「真



田陳列製作所」で独立し、現在に至る。開業には機械代などで40万円ほどがかかったらしい。当時ではかなりの大金だ。「この仕事だけじゃなくて、色々な仕事して金貯めたで。屋台のラーメン屋もやってん。俺、チャルメラ吹くのめっちゃ上手いで」。音楽的センスも求められるとはラーメン屋も大変である。



だと感じた。
現在の「真田陳列製作所」は夫婦二人で切り盛りしている。ここでもコロナの影響で仕事は減っているが、今でも真田さんの腕を信じて頼るお客さんがいる。取材に行った日、工場に出来たてのほやほやのソファがあった。完成までにはたくさん作業工程がある。「昇降盤」という機械を用いて

木を切り、「手押し」で木の角度を調整、そして表面をツルツルにする「超仕上げ」をおこなう。そこから、プレス機を用いて木をくつつけるフラッシュという作業をおこなった後、ようやく組み立てに入る。素人にもわかるように簡単に説明してもらったが、それでも大変な作業だ。仕事道具も細かいものを入れると数百種類あり、それらを全て使いこなしていることに驚きを隠せなかった。図工の通知表が「がんばりましょう」の私には考えられないことばかりだった。工場を見せてもらっているときに気になるものを見つけた。雰囲気の良い旅館にありそうな木造りの電気スタンドだ。柄の部分に葉の紋様が掘られていて見事なものだった。機械はほとんど使用せず、彫刻刀で掘ったそう。葉の葉脈まで細かく刻まれており、一本の平

最後にこの仕事をする上で大切なことは何かを聞いてみた。「技術はもちろん大事やけど、人との繋がりも大事やで。なんぼ良い技術を持っていても、それを発揮させてもらえない仕事になかったら意味がない。

つながりと根気と集中力



らな木材が職人の手によって芸術になったような一品だった。「持って帰るか？」と気軽ににおっしゃったので、少し驚いてしまったが。

あとは根気と集中力やな」。

真田さんは営業の仕事にもよく出ていたそうで、工場で作ったサンプルケースなどを新しいお店などに持参していた。そこでお客さんと親密になり、よく一緒にお酒を飲みにも出かけ、関係性を築いていた。職人は堅物というイメージは強いが、自分で商売をする場合はやはり営業能力も大切になってくるのだらう。

現在、様々な職人の後継者不足が問題となっている。どんなにレベルが高い技術も後継者がいないと失われてしまう。「木は生きている」と語った真田さんが長年かけて培った職人の技術も数百年の時を生きる大樹のように在り続けてほしい。

文責：山村裕太

真田陳列製作所

住所：大阪市西成区北開2の3の10
TEL：06-6562-3769

開業してから

開業当時の「真田陳列製作所」は浪速区にあり、50坪ほどの敷地でやっていた。初めの頃は自分一人だけだったので、大きな仕事をもらっても納期に間に合わせられず受注を断らざるをえなかった。その頃の歯



がゆい思いは今も覚えている。やがて少しずつ職人を雇えるようになり、最も多い時で職人が6人ほどいた。「従業員が家族なんか、わからんくらい近い付き合いをしていた。従業員が子ども預ける所なかったから、よう工場に子どもを連れてきてたで」。今でも付き合いのある職人さんもいるようで、取材

体力と技術

大手化粧品メーカーや下着メーカーの商品を置く陳列棚、飲食店のウィンドウやサンプルケースや販売台などを作る仕事のうち、特にこれからオープンする店は納期がタイトでかなり大変だったようだ。「この仕事はホンマに体力仕事。3日くらい徹夜することもあって、ちよつと座つたら寝てしまから、ずつと立ってた。今そんなんやったら死ぬけどな」。筆

者は30代だが、3日も徹夜すると死んでしまうだらう。しかし、なぜそこまで頑張れるのかが気になって聞いてみた。「頑張つて作った物が店に並んでいるの見たら気持ちええねん。作つているときは辞めようと思つていても、それを見ると辞めようと思つていたことを忘れてしまう」。物づくりに携わる職人ならではのやりがい



ナイスの仲間たち

西成の地域課題や社会問題の解決に挑戦してきたナイスは、来年で創業25周年を迎える。この世代交代の転換期に当社は何をめざすべきだろう。現場で各事業を牽引するリーダーたちに問いかけてみる。

ハウジング事業部 VOL.06 柴田 奈央子さん



ナイスの不動産事業を担うのは、過去に福祉の仕事をしていたという柴田奈央子さん。単なるビジネスではない、福祉の目線を持った「人に優しい不動産」のあり方について語ってもらった。

Q ナイスとの出会いは？

A 元々は、西成区で福祉の仕事をしていました。転職を考えていた時、にしなり隣保館ゆくとあいに出会い、2019年からゆくとあいの職員として、総合生活相談など様々な事業に関わりました。

Q 「住まい」の問題に関わる機会が多く、ナイス不動産と協働することが増えました。「居住支援の視点を持つ不動産業ができないか」とナイスから声をかけていただき、2020年に籍を移しました。

Q 不動産事業をはじめた経緯は？

A 西成に初めて市営住宅が建ったのは1959年。当時は、入居や相談の窓口、自治会運営など、地域住民が主体となって大阪市と協議しながら住宅を運営していました。

Q 同和対策事業が終わって市営住宅の管理が完全に市に移行すると、「応能応益家賃制度」によって低所得者層が流れ込み、若者や働き盛りの世代が出て行く「貧困と困難の一方通行現象」が起りました。加えて、

密集する古い住宅の建替えも地域の長年の課題でした。

Q そこで、大阪市民間老朽住宅建替支援事業（タテカエ・サポーターイング）を活用して老朽化した住宅の建替えを進めました。2006年にはナイスの第1号マンションとなる「ブランコート」を竣工。と同時に不動産事業がスタートしました。

Q 主なお仕事は？

A 事業は大きく3つ。①ナイスがオーナーとなる不動産賃貸事業、②他のオーナーが運営する賃貸物件の管理事業、③老朽化した物件や空き家の建替え・活用を支援する住環境コーディネート事業です。

Q 具体的な業務内容は、まず、入居の契約や退去者の解約手続き、騒音トラブルといった、入居者さんの個別対応。次に、共用部や設備の点検・修繕などの建物管理。そして、お金の管理。家賃の請求と回収、またオーナーへの送金や取引先への支払いなど様々です。

Q 仕事で大切にしていることは？

A 私たちの事業は不動産であると同時に



「住まいの福祉」でもあるので、住居を必要として来られる方を拒まない「人に優しい不動産」を目指しています。支援者さんの助けを借りながら、持病のある方や高齢の方、DV被害を受けている子育て層など、他社なら入居を拒んでしまう人たちが積極的に受け入れることを基本としています。もちろん、入居後の様々なご要望にもきめ細やかに対応しています。

Q 今、感じている課題は？

A 最近の家賃債務保証会社が連帯保証人に

代わってリスクを負う契約が増えてきましたが、保証会社の審査に落ちた人は、私たちが望んでも入居できません。先ほどのような困りごとのある人や世帯にこそ安心して住める部屋が必要なのに、そういう人ほど入居できないのが現状です。市営住宅もこの地域においては抽選の倍率が高いので、即入居というわけにはいきません。

Q 市営住宅には「政策的空き家」と呼ばれる、募集をしない住戸が一定の割合で存在します。住宅確保が困難な方々の一時的な住まいとして、そうした空き家を本当に活用できないかと考えています。

Q 今後の目標を聞かせてください。

A 自立するまでの間、少し見守りが必要な若年女性のシェアハウスを計画しています。例えば、執行猶予付きや満期で刑務所を出所した方や、18歳になって養護施設を退所することになった方。パートナーからDVを受け小さい子どもを連れて家を出ざるを得なかった方がいます。そうした支援も行き場もない女性たちのシェルターとして、また社会に出るまでの準備期間の場として役立てら

れたらと思っています。男性用は既に運営していますが、女性用に関しては来年の夏オープンを予定しています。

取材を終えて

柔らかな笑顔の中に、困っている人を放っておけない誠実さと、課題に向き合う意志の強さを感じた。無機物である住宅も、血の通った支援によって温もりが生まれる。いま時かかっている街づくりの種は、未来の西成にどんな花を咲かせるだろう。

文責：福井龍磨・安田拓也



ハウジング事業部

●住所：〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-9 パークコート2階 ●TEL：06-6563-1153
●営業時間：9:00～18:00
●定休日：土日・祝・年末年始



[谷口円]PCを買い換えました。技術の進化と共に扱うデータ量が増え、それに呼応してPCもハイスペックになるからなのか、買い換えるたびに値段が高くなっていきます。ツライ。



[田岡秀明]次男とドラえもん宇宙小戦争という映画を見た。民主ドリカVS独裁ビシアの戦争がテーマ。冷戦中85年のリメイクとはいえ、あまりにも勧善懲悪すぎる内容だった。



[沖田一志]マルウエアのemotetが流行。添付ファイル付きのメール、送信者は知人、ありそうな件名、しかしメアド、署名がデタラメなのが最近の特徴。セキュリティソフトによっては未検出。



おかんのため息

- おかん はあ…。春は出会いと別れの季節やなあ。
- ◆ 息子ヒトとコトが動く季節やね。
- あんた、しばらく見かけてへんなあって思う人とかいる？
- ◆ う〜ん、思いつかなあ。
- もう12〜13年ほどの付き合いになるお婆ちゃんだな、その頃から認知症の傾向があって地元をよう歩き回りはるから、歩行器を納品してん。
- ◆ うん。
- ルートはほぼ決まって、家から歩いてなにわ筋、商店街を回って家に帰って来る。所々で歩行器の座面に座って休憩してはるから、通行人の目によう付いたと思う。たぶん、地域でも知らん人っておらんのちゃうかな。
- ◆ ちょっとした有名な？
- そういうことやないんやけど、結果的に、地域のたくさんの人に見守られてたんやと思う。ある日、家の暖簾に火がついて小火になって。通りすがりの人がそれを見つけて助けてくれた。消防車や警察、地域の人がたくさん集まってきて。
- ◆ そら、大変。
- ケアマネさんも呼ばれて行ったら、安心したみたいで「怖かった」って号泣したらしい。
- ◆ 信頼されてるんやね。
- 「やっぱり独居は無理や」って言う地域の人らとケアマネさんが話しているうちに、「なんとか家で暮らせるように、見守ろうか」ってなつたらしい。
- ◆ みなさん、優しいね。
- お金の管理を任されてる後見人も「こんな人

は初めてや。いろんな人を受け持つてるけど、ここまで地域の人に守られてる人はおらへん」って言うてたって。

- ◆ なんで、そうなる？
- けっこうキツイ言い方するんやけど、感謝の気持ちはちゃんと持つてるみたい。それが地域の人にも伝わってるんやろうな。
- ◆ ふうん。
- ベッドを納品したときのことはよく覚えてる。万年床に寝たままで起きれなかったから、ベッドを入れようってケアマネさんが提案したんやけど、拒否された。でも、ちょっと強引に、ベッドを入れることにしてん。
- ◆ 「ちょっと」ね。
- で、その搬入の時に「うわああ、こんなおババのために、こんなん入れてくれて、ありがとう！！」って号泣。
- ◆ えっ、そっち？
- その姿みてたらこっちも涙出てきて。
- ◆ ははは…。
- 他にも、さっき話した小火の後はタバコ渡さんようにしてんけど、いつの間にか吸うてる。なんか、道端で歩行器に座って休憩してるときに、「あんた、タバコあるか？」って誰かと声をかけてる。で、優しい人はやっぱりくれるらしい。私も「あんた、タバコ持つてるか？」って聞かれたことあるし。
- ◆ 地域で見守るってこういうことなんかなあ。あ、オレも見たことあるかも。いつも同じとこに座ってるなって。
- ずっとこうやって歩行器押ししてる、小さいお婆ちゃん。
- ◆ ああ、そうか。あの人のな。
- 「その人や」言うたら、みんなが「ああ、あの人が」ってわかんねん。
- ◆ そう言えば、見かけんようになったな。
- この年末に骨折して、いまは老健でリハビリしてはるらしい。遠くにいる息子さん、ちゃんとお母さんをみてたんかな？ 地域の人やケアマネさんのほうが向き合ってたんちゃうかな。知らんけど…。

※本文は関係者各位の許可をとって掲載しています。



3月8日はドキドキの発表会を開催♪ 太鼓演奏、歌にダンス、英語など、1年を通じて学んだ成果を存分に発表できました！こうした行事をやりきって、子ども達はまたひとつ成長し、頼もしくなりました☆



たぐの 3くふうたま

昼間

建て変わる街

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から紡ぐヒントを探してみる。

仕事場の隣のビルが解体でえらく賑やかだ。そこかしてビルの建て替えや修繕工事が目立ち、いよいよ隣のビルもかという感じ。解体されては駐車場を経て、間もなく仮囲いが施される。大型トラックが出入りし始めたかと思うと背の高いクレーンがそびえ立ち、一時期ちよつとしたランドマークと化す。

バブル期以前に建てられた建物が、否応なく改修を考えなければならぬ時期を迎える。特に1981年5月31日以前の建物は周知のとおり旧耐震基準である。経済的な負担は大きい命には代え難い。耐震改修の補助金で街の強靭化を図るべきだろう。

そういえば新今宮の星野リゾートOMO7がこの4月にオープンする。近くを通ると、白い巨大な建物がそびえ立っていた。この時勢に人が戻るか心配だが、ホームページを見ると地域に開かれる緑豊かなアプローチ空間や何だかカッコいい大浴場に惹かれ、一度は行ってみたいくなる。ホテルを拠点に、沢山ある関西の観光資源の賑わいが戻ればいいと思う。

(安田拓也)



下町にそびえるまちの希望



【安田拓也】最近は全然走れてないけど、生駒の山をハイキングする機会に恵まれた。いや仕事だけど、プライベートでもまた良い季節に訪れたと思う。知られざる大阪の風景があった。



【福井龍磨】大阪市中央図書館で「大阪を舞台にした文学」の棚を見つけた。戦前のもから最近のものまで数百冊、ジャンルも純文学やミステリーなど様々。都市は物語を育む場なのだ改めて思う。



【西原夏美】休みの日は友人に誘われない限り外にでないで、家で絵を描くかゲームをしたりで一日を過ごすんですが、時折カラオケに行きたくなることあるんですよ。また落ち着いたら行くのかな…



【西田吉志】22年度は西成区北西部の地域において、大規模な「まちづくり」に挑戦する年になりそうです。人口、住宅、子育て、雇用、福祉、医療など総合的な視点から、この地域に新たな価値を見出したいな。

葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「アジサイの葉っぱ」の巻 part 2 生きる力

さむい部屋でブルブル震えていた。せまい部屋でギュッと固まっていた。くらい部屋でビクビクしながら耐えていた。しずかな部屋で何も聞こえない。聞こえるのは私の吐息とかぼそい泣き声。でも、今日でこの部屋とはさようなら。あたたかくてあかるい世界。そして仲間のいるこのひろい場所で、私は生きていく。

赤井まゆみ

アジサイのこと

アジサイの葉は、全体的には卵型のかたちをしており、大きさは10~15cmほど。表面には光沢がある。

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



(寺本良弘)

3月3日「水平社創立100年記念集会」に参加した。日本初の人権宣言と言える「水平社宣言」の朗読に始まり主催者・来賓あいさつ、功労者表彰と続き第2部は島崎藤村の『破戒』を60年ぶりに映画化した新作を鑑賞した。部落出身の主人公が出自を言えずに苦しむ姿が描かれていて当時の部落差別の厳しさが見事に伝わってきた。「解放令」を以て日本社会から身分制度は無くなったはずだ。にもかかわらず、政治家でさえも公然と差別し続けた、そんな時代の話である。

政治には国民の命を守るという大きな使命がある。しかし、その使命が十分に果たされない歴史が今も続いている。主催者らがあいさつでロシアのウクライナ侵攻を取り上げ、戦争は最大の人権侵害、差別だと訴えていた。連日の報道では、罪のない市民が負傷し命を奪われている姿が伝えられている。政治とは何なのか。権力ある人間が多くの人びとを死に至らしめる理不尽を感じる。

い湯がげん



水平社の序曲

全国水平社が創設されたのは1922年3月3日、今年で100年目になります。そこでいつまでかかるかわかりませんが、本連載『い湯かげん』でも100年の時を超えてみたいと思います。まずは戦前編から。歴史の案内人は、西成の部落解放運動の父、松田喜一です。

この連載ではその時々で歴史の舞台となった場所の現在の写真を掲載していきます。第一回は恵浄寺、大阪市平野区平野市町にある浄土真宗本願寺派のお寺です。全国水平社創立の動きが大阪に伝わってきたのは1922年1月の頃で、2月20日に部落解放大講演会がこの平野の恵浄寺で開かれたのです。恵浄寺で講演会を主宰したのは青十字社の木本凡人、天王寺公園の近くで正露丸を製造販売しながら社会運動を支援した人です。

遡って、1877年。西南戦争で博愛社という民間救護団体が「傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である」と無差別で看病にあたりました。創設者は大阪北浜の適塾の緒方洪庵に学んだ佐野常民です。博愛社はその後1887年に名称を変えて「日本赤十字社」となり、現在に至ります。これに擬えて自らの組織を「青十字社」としたのは、木本の大阪人らしい機知だったのでしょうか。翌2月21日には中之島公会堂で同胞差別撤廃大会が開かれますが、松田喜一や同じ西浜の石田正治らが全水創立大会のピラを撒き、会場は水平社宣伝の場と化しました。私体験ですが、1992年に映画『橋のない川』のロケでこの中之島公会堂の大会が再現され、ボクもエキストラとして参加しました。ロケ弁も美味かったですが、二階から撒かれた大量のピラが宙を舞うシーンには感動しました。にしなり隣保館からなら恵浄寺まで徒歩で約2時間、松田喜一や開城の幾人かの先達が、興奮を抑えながら往路、帰路を歩く様を思い浮かべながら、ボクも同じ2月に歩いてみました。とても寒かったです。さて、松田喜一の幼少期は後に書きますので、ここでは働き始めの頃から。12歳で難波の煙草専売局の職工になったものの森川硝子、日本電球など職を変わりながら有隣尋常小学校(最近まで人権博物館があった処)の夜学部に通いました。その



後も西浜の合阪皮革製造所をはじめ、皮革工場を転々とした。松田喜一は最初、水平運動より先に社会主義運動に参加しました。1920年に「日本社会主義同盟」ができたからです。1910年の大逆事件という一大冤罪事件が起こって幸徳秋水や高木顕明らが処刑されてしまい、社会主義運動はほぼ壊滅してしまいます。しかし1917年のロシア革命の報が伝わると、再び活気づいて社会主義者が再結集し同盟が結成されたのです。水平社宣言で有名な西光万吉や、大阪からは木本凡人や大阪の社会運動の草分け的存在の逸見直藏なども参加しました。しかし、翌年5月には結社禁止処分を受けて日本社会主義同盟は解散させられてしまいました。松田喜一21歳の時でした。

時空を戻して100年後のいま、ロシアがウクライナを侵略したとのニュースが飛び込んできました。ボクは真っ先に、プーチンが民主運動を弾圧してきたこと、習近平が香港の民主運動を弾圧したことを思い浮かべました。民衆を抑圧し、社会運動を弾圧する先には戦争がある、それは歴史の教訓です。

[山村裕太] 先輩と釣りを始めようかという話になっている。釣り道具を見に行ってから約半年経過。釣りは待つことが大切なので、釣りを始めるのもゆっくり待とう。



[若松司] ロシアのウクライナ侵攻。多くは語れないが、政府と多くの国民や文化とは分けて考える必要があると思う。ロシア人だからと差別されるなんて言語道断だ。



地域の縁を心でつなぐ

心の時間



四月に入り、新しい人との出会いの季節がやってきました。昔から「出会いの数だけ別れがある」と言われてきましたが、歳を重ねるにつれ「出会い」よりも「別れ」に重みを感じます。それは共に過ごした時間の長さや深さが、別れた人をかけがえない人に変えていたからでしょうか。それともいつか自らも「別れ」を告げなければなら

ないと感じ始めているからでしょうか。いずれも「別れ」が「-（マイナス）」と受け止められ、寂しく感じます。しかし「-」を「+」に変える可能性を秘めた「イメージネーション（想像力）」は寂しさを埋める智慧となります。「別れ」を「+」に変える力が身につけば、「出会い」と「別れ」が足し算になります。これは「絵空事」ではありません。「別れ」によって深まる関係もあるのですから。

たとえばお葬式ではそのようなイメージネーションが力を発揮します。「故人と共に生きる」「故人と会える世界がある」などの発想はイメージネーションは悲しみを乗り越えるきっかけとなるように思います。

松向寺 通法

ココロココ

ココはドコ？
わたしはゆ〜れ？
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

とある駅の写真です。レトロな駅舎ですが、写真をよく見ると自動改札が見えますね。ココがドコだかわかった人は、ゆ〜とあいの受付まで！正解者にはドリンク無料チケットをプレゼントいたします（先着10名様限り）。回答期限は4月末日、ふるってご回答ください！

【先月号の答え】 出城西公園の隣、出城3丁目6-9でした！いつになったら完成するのか…西成のサグラダファミリアですね。



ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび4月号(vol.182)
発行日:2022年4月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1156
E-mail:info@nice.ne.jp
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司
編集:沖田一志、田岡秀朋、西田吉志、西原夏美、福井龍磨、安田拓也、山村裕太(あいうえお順)
イラスト:hidarimakい デザイン:谷口円

facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>

facebook

